

自然農法で自給自足を目指す!



井海さん家族は、ご夫婦と長男の麦（むぎ）君、次男の作（さく）君、そして今年7月に生まれた長女の落（ふき）ちゃんの5人家族。自然の中で暮らしたいと、宮崎に2年、福島で5年を過ごし、ようやく落ち着いてきた昨年3月、東日本大震災が・・・。

やむなく福島を離れることになり、新しい土地を探していた時に安浦の情報を知り、市原の土地を一目で気に入り即、購入。昨年秋より安浦に移り住み、野菜作りをしながら、新しい土地での生活を頑張っています。安浦は海に近く、温暖で交通の便もよいので非常に気に入っているとのこと。市原の自治会にも加入しました。

また、農機具を使わず、自然を生かした農業で自給自足の生活をしながら地域の皆さんと楽しく過ごしていきたいそうです。

安浦には空き家が多くあり、このような家族がどんどん入居して、皆さんと一緒に活動すれば、地域の活性化に繋がります。皆さんで応援しましょう。



佐藤 和幸さん

日本列島、自転車縦断

この偉業を成し遂げたのは、佐藤和幸さん（内海北在住 71歳）。「健康のために」と15年前に始めたサイクリング。一昨年には「芸予諸島自転車100周」を達成。昨年の夏39日間かけて、北海道宗谷岬から鹿児島佐多岬まで3,301km。途中、仙台で瓦礫撤去のボランティアをしたり、自転車店に立ち寄って、とびしま海道やしまなみ海道の魅力を伝えてきたそうです。そしてこの秋7日間かけて沖縄本島を一周（489km）し、自転車での日本縦断を達成されました。人の温かさを感じた3,790kmの一人旅だったそうです。

スポーツ関係の様々な資格に加え、マジックに腹話術、鈴虫の飼育まで、多種多様な趣味と特技を通して、どんどん人とつながっていく佐藤さん。「出逢いと新しい自分を発見する感動である!」佐藤さんの名刺に記された言葉です。



国實 敏博さん

山野草を愛し育て

野呂山の水のせせらぎと、穏やかな鳥の声と心癒やされる空間で山野草を育て販売する国實さん。

山野草を特別の世界のように感じて、54才の時に郵便局を退職。転職して15年目を迎えます。この仕事が好きで、珍しい品種も多く手がけています。山野草の話になると目が変わり話が尽きない国實さん。「この世界は厳しい世界。水やりも難しく手を抜くと正直なもので、しおれてだめになる。趣味と商いは違います。」と職人気質のところがあり、仕事に誇りと生きがいを持っています。

育てることにはだれにも負けない。強い意志で「植物の精」と言われる人になりたいと、山の中に響くほどの声高らかな笑い声で応えてくれました。

山野草 国實 敏博（くにざね としひろ）さん
安浦町原畑 123-3 0823-84-5853



珍しい山野草が育つ園内



ヤマジャクヤク



ナンバンギセル（南蛮煙管）



飛翔（鷺草）

安浦ええとこ村プロジェクト進行中!

休耕農地でそばづくり

只今町内の
そば打ち名人
募集中!



安浦ええとこ村プロジェクトのひとつとして、南家の休耕田を活用して始動したそばづくり。南薫造記念館周辺の景観整備と、同館に多くの来館者を集めたい思いで、8月の暑い中、草刈り・田おこしから始まり、8月23日にそばの種を蒔きました。

10月にはそばの花がきれいに咲き、評判になりました。蕎麦の小さな白い花が畑一面に咲く景色は実に見事!いよいよ11月初旬にそばを刈り取り、脱穀して、12月に「そば収穫祭」を実施予定。



そこで

そば打ちの腕に
自信のある方を募集中!

11月30日（金）までに
安浦市民センター
（岡本）まで。

勇壮!三津口の權伝馬

源平時代の名残を残す伝統行事『權伝馬』。近郊では安浦町のほか、下蒲刈町、豊浜町、東野町及び竹原市に伝わり、現在も神社の祭礼や歓迎行事として実施されます。そのルーツとは?

源平時代の名残を残す伝統行事『權伝馬』。「ホーホーエンヤー」、「ホーランエー」、「ヨイヤサーノサッサイ」の掛け声とともに、三津口湾を疾走する雄姿は見る者の心を躍らせます。

近郊では安浦町のほか、下蒲刈町、豊浜町などでも続いており、現在も神社の祭礼や歓迎行事として実施されます。

三津口の神山神社祭礼には欠かせない權伝馬、私たちの力でいつまでも続けていきたいものです。



昭和40年代頃の權伝馬風景



おでかけ情報

11月

安浦ええとこ祭り 11月17日（土）10:00～18日（日）9:30～
安浦中学校グラウンド・武道館

安浦青少年ふれあいコンサート 11月17日（土）17:00～
安浦公民館きらめきホール

呉市制110周年・呉市立美術館開館30周年記念「南薫造と教え子たち」展 ～11月25日（日）
呉市立美術館

月の西行祭 11月25日（日）13:00～
グリーンピアせとうち

12月

クミココンサート 12月9日（日）16:00～
安浦公民館きらめきホール

いなし安浦青空市 12月15日（土）8:30～
いなしふれあい広場

1月

大人の集い 1月14日（祝）10:00～
安浦公民館きらめきホール

いなし安浦青空市 1月19日（土）8:30～
いなしふれあい広場

ロケに携わった安浦人！

2011年9月、NHK大河ドラマ「平清盛」のロケから1年が経ちました。地元の皆さんのボランティア清掃や、漁協の皆さんによる海上撮影や炊き出しなど、多くのスタッフさん達と一致団結して、約1ヶ月にわたるロケを支え続けました。この支援者の中には、エキストラとして参加し、撮影に協力した人たちもいます。

その中の一人、漁村の村娘を演じた宮川美希さん（22歳）に感想を聞くと、「朝早くから撮影が始まったのですが、一つのシーンを撮るのに、とても時間と手間が費やされ大変苦労しました。そして一緒に共演した役者さん達の、1シーンに懸ける熱い役者魂に圧倒されました。でも安浦町を全国の皆さんに知ってもらえて嬉しかったです。私もロケに参加して貴重な経験ができました。」とのこと。エキストラ参加の皆さん、お疲れ様でした。さあ、ドラマはいよいよ佳境へ。最後までお見逃しなく。



目指せ

安浦のタイガーウッズ！

優勝

ジュニアゴルフチャンピオンシップ

安浦町出身の山根大輝さん（16歳）は9月15日（金）～17日（日）に群馬県高槻市で行われた、日本ジュニアゴルフ協会主催サマーゴルフジュニアチャンピオンシップ決勝大会の15歳～18歳の部で優勝しました。この大会は過去にはあの石川遼選手も出場したことがある大会です。山根大輝さんはお父さんが趣味でゴルフをしていたのを見て、興味を持ち11歳からゴルフを始めたそうで、現在瀬戸内高校に進学し日々練習に励んでいます。

優勝の感想を聞くと、『優勝し日が経つにつれ、今後ミスができないと思うようになった』と語り、少し重圧に感じているようです。その重圧をはねのけ、目標とするタイガーウッズ選手のようなすごいプロゴルファーになってもらいたいですね。



～弘法寺の火渡り護摩法要～

10月21日 伊音城弘法寺にて火渡り護摩法要が行われました。当日は天気にも恵まれ、400名以上の方々が訪れました。

信者さんをはじめ見に来られた一般のお客さんは、護摩木を燃やした後のまだ煙が立ちのぼる炭の上を、思い思いの事を祈願しながら渡られたのでした。



安浦を知ろう、学ぼう、楽しもう

安浦町まちづくり協議会では、「安浦のことを“たんと、たんと”知って、楽しもう。」そして「将来の人材発掘につなげよう」と、今年より人材育成研修を『やすうらたんと塾』に改称し、実施しています。町内外の皆さん、この機会に是非安浦のいいところを“たんと、たんと”発見してみませんか。

【今後の日程】 11月22日（木）やすうら地域学講座「平家伝説めぐり」
12月7日（金）まちづくりワークショップ

◎参加申込：安浦町まちづくり協議会（安浦支所内） ☎ 84-2261

～やすうらたんと塾～

伝説と昔話

第3話

安浦の民話シリーズ

野路地区（中切）

黄幡さんの大蛇



野呂山の奥の原あたりから流れる中切川は大変な暴れ川で、大雨のたびに洪水を起こし、家や田、畑をめちゃめちゃにするので、里の人たちは大きなヘビが住んでいるといわれる



森に龍神様をお祀りして、被害がないようお願いしていました。

ある年のことです。五日間も降り続いた雨で川が氾濫し、今にも土手を乗り越えそうになったので、里の人たちは年寄りや、女・子どもにわずかばかりの食べ物を持たせ、少しでも高い所へと避難させました。

雨はいつこうに止む様子もなく、川は滝のように音をたてて流れ、大きな木や石さえも流していきました。

男たちは力を合わせて、懸命に土手の崩れそうな所に土を運んでいましたが、川の流れが少しずつ弱まっていることに気づきました。不思議に思った男たちは、まだ雨の降りしきる山道を奥の原の方へと登っていきました。

すると、谷の一番狭くなっているあたりに一匹の大蛇が体を中切川に横たえて、押し流されそうになりながらも、頭をカシの木に、尾を大きな岩にがっしりと

私たちの住む安浦町は古い歴史があり、数々の民話や伝説が生まれてきました。子から孫へと後世に残る素晴らしい贈り物。各地に残る古くから語り継がれてきたお話をシリーズで紹介します。

※地元では黄幡神社を「王幡社」と言っています。

巻き付けて、流れてくる大木や石を必死に食い止め、うろこに血をにじませている姿が目に入りました。

やがて雨も止み、川も緩やかになった頃には、さすがの大蛇も疲れ果ててぐったりと息絶えていました。

逃れていた里の人たちも、この大蛇のところまで降りてきて、その痛々しい血のにじんだ姿に息をのみ、大蛇が水をせき止めてくれて命拾いできた。と感謝して、思わず手を合わせました。

その後、里の人たちは話し合っこのカシの木をご神体としてお祀りし、観音堂にワラを持ち寄って、長さ10m、胴回り50cmばかりの大蛇の形を作り、黄幡神社まで若者たちが肩に担いで運び、御神酒を注ぎ込んでカシの木に巻き付け、この時の出来事に感謝し作物がよくできるようにお祈りしたと云われています。

今でも毎年10月頃、揃いのはっぴを着た大人・子どもが、竹の先に付けたワラヘビを先頭に、森神社から笛や太鼓の行列を組んで黄幡神社まで行き、古いカシの木にぐるぐると巻き付けています。



写真でみる今と昔

安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。昭和30～40年代を中心に今と昔を見比べる特集です。現在の町並みから、懐かしい風景をご覧ください。

昔の写真を募集しています！

ご家庭に眠っている昔懐かしい写真を募集します。

写真は広報誌やホームページで活用します。

提供いただいた写真は後日返却します。

安浦町まちづくり協議会
0823-84-2261

内海小学校付近



昭和38年の内海小付近。手前は消防屯所と駐在所



現在 橋も架けかわり内海小の体育館になっている

藤木地区の県道内海三津線



昭和38年の藤木地区



県道内海三津線が改良された現在